

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 23 年 5 月 24 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530546

研究課題名（和文） 中国残留日本人・日系人の生活と越境的社会圏の構築

研究課題名（英文） War-displaced Japanese orphans in China : Their life and cross-border social circle

研究代表者

浅野 慎一（ASANO SHINICHI）

神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授

研究者番号：40202593

研究成果の概要（和文）：

日本と中国の双方に居住する中国残留日本人・日系人の生活と社会意識を、インテンシブな面接聞き取り調査によって明らかにし、しかもそれをポスト・コロニアルの歴史的な社会変動、特に日本と中国の越境的社会圏の構築過程として把握した。これらの研究成果を、学術論文・口頭報告・書籍・国際シンポジウムでの招待講演等として発表するとともに、マスメディア・教育界・法曹界等を通じて社会に還元・発信した。

研究成果の概要（英文）：

We have researched the life and social consciousness of War-displaced Japanese orphans in China living in Japan or China with intensive interviewing method. Also we have comprehended the result as post-colonial social change of the east Asia. It is the process of construction of cross-border social circle between Japan and China. We have published the outcome as treaties, books and have read papers at some academic meetings, international symposium. We have reported it through mass-media, and have contributed to the educational and legal circles.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|---------|-----------|
| 2010年度 | 800,000 | 240,000 | 1,040,000 |
| 2011年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 2012年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総計 | 3,200,000 | 960,000 | 4,160,000 |

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：残留日本人・日系人、国民国家、ナショナリズム、エスニシティ、社会変動

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、中国残留日本人・日系人に関

する先行研究の多くは、日本への帰国者に視野を限定し、しかも日本語学習、就学・就職、ナショナル・アイデンティティ、異文化適応、行政施策の変遷等、細分化された個別課題に焦点を当ててきた。またそれらの多様な個別課題の分析を複合して、多角的・学際的に残留日本人・日系人の実像を解明しようとする共同研究もあった。

(2) しかし一人ひとりの中国残留日本人・日系人の生活・社会意識を、歴史的な社会構造変動・新たな越境的社会圏の構築過程として、一貫したパースペクティブと方法論のもとで把握する研究は、未だなされてこなかった。

(3) こうした背景をふまえ、本研究は、戦後日本の地域社会学の分野で形成されてきた「構造分析」の方法論を発展的に適応し、諸個人の「生命=生活(life)」の発展的再生産過程、および東アジアのトランス・ナショナルな社会構造変動を貫通する論理を、「下からの歴史形成」過程として実証的に解明することをめざした。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、日本と中国の双方に居住する中国残留日本人・日系人の生活と社会意識を、インテンシブな面接聞き取り、および継続的な参与観察によって明らかにし、しかもそれをポスト・コロニアルの歴史的な社会変動、特に東アジアの越境的社会圏の構築過程として把握することにある。

(2) この実証研究を通して、①歴史・国家に翻弄される諸個人が、いかなる形で主体的に生活・社会を形成しつつあるか、

②ポスト・コロニアル時代における東アジアの越境的な主体と社会圏が、どのように形成されつつあるか、そして③自然本質主義と社会構築主義の二分法の克服をも射程に入れた血統主義的国民統合の内在的批判が、いかに可能かといった諸論点にアプローチする。

(3) また現在、社会問題となっている残留日本人・日系人問題の実践的解決にとって有益な社会学的知見を提供する。

3. 研究の方法

(1) 本研究の主要な方法はインテンシブな面接聞き取り、および継続的な参与観察にもとづく実態調査である。調査のフィールドは、日本・中国の双方にまたがる。調査での主な使用言語は中国語である。

(2) 調査を貫く基本的な方法論は、日本の地域社会学で培われてきた生活過程分析にもとづく社会変動論である。

(3) 本研究では、計約 350 名の中国残留日本人・日系人、およびその家族(配偶者・養父母等)への面接聞き取り調査を実施した。また約 50 名の対象者について、継続的な参与観察を実施した。聞き取りはほぼすべて録音し、日本語に翻訳して文書データ化した。

(4) また中国残留日本人の労働・生活、国家賠償訴訟・政府支援策等に関する諸資料も収集・分析した。

(5) さらに残留日本人・日系人が日本帰国後、生徒として多数通った夜間中学校

をフィールドとして、全国規模・1150名の生徒を対象にアンケート調査も実施した。

4. 研究成果

(1) 日本・中国双方での先行研究の到達点と課題を総括するとともに、残留日本人・日系人、およびその家族計約350名に関するインテンシブな面接聞き取り・参与観察調査の結果を日本語に翻訳・整理し、分析した。その成果の一端を数本の学術論文として発表した。発表雑誌論文の③・④・⑤・⑥が該当する。

(2) 上記のうち、特に兵庫県に在住する残留日本人孤児1世の生活と社会意識に関する調査結果を、報告書『日本人として 日本の地で 人間らしく生きるために』として総括し、公刊した。主な発表論文等の図書①が該当する。またこれを礎石とした最終総括としての書籍原稿を執筆し、ほぼ最終遂行段階に到達した。

(3) 残留日本人・帰国者が生徒として多数通っていた夜間中学校において、全国で1150名に対するアンケート調査を実施した。その成果の一端を、学会発表、学術論文として発表した。主な発表雑誌論文の①、学会発表③が該当する。

(4) 各種実証研究の成果をふまえ、本研究テーマの基礎となる東アジアの越境的社会圏について考察を深めた。一方で生活過程分析にもとづく社会変動論の方法を堅持しつつ、世界システム

論・帝国論等の知見も援用し、総括した。その成果を、学術論文として発表するとともに、学会・国際シンポジウム等の招待講演として報告した。主な発表雑誌論文②、学会発表①・②がこれに該当する。

(5) 研究成果の海外への発信として、Sun-In Kweon 教授(ソウル大学)の依頼により、“Multicultural Japan & Identity Politics(原語はハンゲル)” Seoul National University Press に、“Human Development & Publicness Mirrored in Japanese War Orphans Left Behind in China: Critical Nationalism & Non-Nation State” を執筆した。主な発表論文等の図書②が該当する。またこれ以外に、D.Chapman 博士(University of South Australia)・K.J.Krogness 博士(Nordic Institute of Asian Studies)の依頼により、“Household Registraion in Japan :The Past and Present” ” Routledge に、“Blood and Country: *Chūgoku Zanryū Kōji, Nationality and the Koseki*” を執筆し、本書は現在、最終校正中である。

(6) 主な研究成果の社会への還元・社会貢献として、東京・兵庫で関係者(当事者・支援者・夜間中学関係者等)への報告会を開催した。また九州弁護士会の招待で、残留日本人・日系人の生活実態に関する講演(「残留日本人二世の生活と問題の所在」)を行った。第57回全国夜間中学校研究大会で、基調講演(「ミネルヴァのふくろうたち:夜間中学生の生活と学習」)を行った。各種

マスコミにも研究成果を公開した。特にNHK 国際ラジオ・多言語ニュース・インサイトで「残留孤児問題の今」の解説者として、各国に多言語で研究成果の一端を発信した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 浅野慎一「ミネルヴァの梟たち—夜間中学生の生活と意識」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』6-1 査読無 2012 125-145
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81004277.pdf>
- ② 浅野慎一「民族解放・国民主権を超えて—世界システムと東アジア」『日中社会学研究』20 査読有 2012 1-8
- ③ 修岩・浅野慎一「中国残留日本人孤児の国民国家に関する社会意識—アイデンティティ論を越えて」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』5-1 査読無 2011 135-154
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81003446.pdf>
- ④ 浅野慎一「中国残留日本人孤児にみる国家賠償訴訟の組織過程—兵庫原告団における主体と連帯の形成」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』5-1 査読無 2011 123-133
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81003445.pdf>
- ⑤ 修岩・浅野慎一「孤立と差別—永住帰国した中国残留日本人孤児の家族・社会関係」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』4-2 査読無 2011 151-180
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81002994.pdf>
- ⑥ 浅野慎一・修岩「本是同根生 相煎何太急—永住帰国後の中国残留日本人孤児」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』4-1 査読無 2010 211-230
<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/81002653.pdf>

[学会発表] (計 3 件)

- ① 浅野慎一「ポスト・コロニアルの東アジア—国内労働力流動化とナショナリズム」長崎大学国際シンポジウム「移動と記憶」招待講演 2013. 3. 22 長崎大学

- ② 浅野慎一「民族解放・国民主権を超えて—世界システムと東アジア」日中社会学会第24回大会シンポジウム招待講演 2012. 6. 2 立命館大学
- ③ 浅野慎一「夜間中学からみた大阪」地域社会学会第36回大会、記念講演 2011. 5. 14 山口大学

[図書] (計 2 件)

- ① 浅野慎一・修岩『日本人として 日本の地で 人間らしく生きるために—兵庫県に暮らす中国残留日本人孤児の人生と闘いの記録』2011. 3. 25 全274頁
- ② Sun-In Kweon, ed. Multicultural Japan & Identity Politics, Seoul National University Press 2010 345
Tong Yan, Asano Shinichi “Human Development & Publicness Mirrored in Japanese War Orphans Left Behind in China: Critical Nationalism & Non-Nation State” pp.193-234

6. 研究組織

(1) 研究代表者

浅野 慎一 (ASANO SHINICHI)
神戸大学・大学院人間発達環境学研究科・教授
研究者番号：40202593

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：